

アフリカの都市形成と都市特性

寺谷 亮 司*

1. はじめに

筆者は、これまで新開地¹⁾における都市の形成・発展プロセスの解明を主要研究課題の一つとしてきた。そして当該テーマにふさわしい外国地域の研究フィールドとして、東アフリカおよび南部アフリカ地域を選定し、ケニアおよび南アフリカ共和国の都市についての実証的研究を行ってきた(寺谷, 1993; 1997; 1999; 2001)。ただし、アフリカ全体の都市形成史や都市分布、およびアフリカ都市の地域的差異に焦点を当てて言及する機会はこれまでなかった。

一方、アフリカ全体の都市特性に関する主要な和文先行研究としては、以下のものがある。まず、日野(1983; 1992)は、歴史的成立過程に基づき、植民地以前都市と植民地都市にアフリカ都市を大きく二分し、さらに細分してアフリカ都市の特性を説明した。松田(1996)は、アフリカ都市社会が、中枢層(白人とアフリカ人エリート)、旧中間層(インド人商人など)、新中間層(公務員、教員など)、出稼ぎ民層の4階層から構成され、とりわけ数の上では出稼ぎ民層が圧倒的に占める点を強調した。周知のように、アフリカの都市化率は世界的には低水準であるが、都市人口の急増によって、アフリカの都市化の進展には著しいものがある。アフリカの都市化に関しては、早瀬(1999, pp.189~208)がその概要を述べており、土屋・中村・中原(1987)は、巻末統計や文献解題とともに、アフリカの都市化の進展と都市問題について述べた貴重な著作である。また、コナー著、近藤・河合訳(1993)は、文字資料のきわめて少ないアフリカにおいて、主に考古学資料から都市の形成を論じており、同書中には1200, 1400, 1600, 1800年におけるアフリカの都市分布が図化されている。上記文献を含めても、アフリカ都市を対象とした研究は僅少であり、とりわけ最新

データを加味したアフリカ全体の都市分布の変遷など、アフリカ都市の特性についての概括的紹介をする意義は十分にあると考えられる。

上記諸点を踏まえ、本稿の目的は、都市発達史、都市住民特性、都市化、都市の地理的分布、都市規模などを分析視点として、アフリカの都市群全体の都市特性を検討することにある。また本稿では、上記分析を通じて、新開地都市としての位置づけが可能と思われる東アフリカおよび南部アフリカ地域の都市群特性を、アフリカ全体のなかで位置づけることも意図している。

2. 都市の歴史とアフリカ都市の2類型

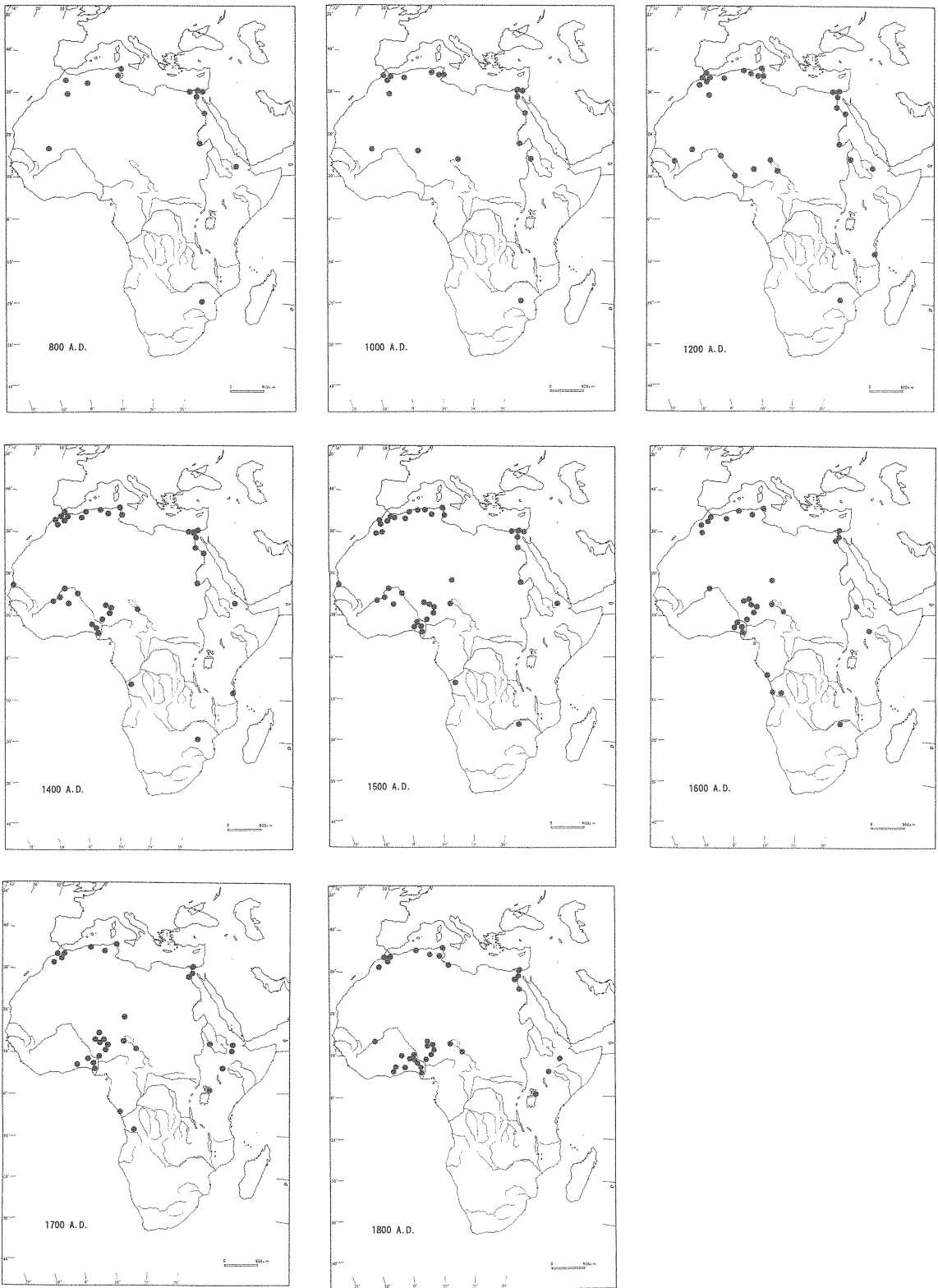
1) 植民地時代以前の都市分布

アフリカは、世界陸地の約2割を占める広大な大陸である。そこには、人口数百から1,000万を超える1,000に近い異なる部族集団が生活し、多様な移動履歴をもっている。また、無文字社会がほとんどであり、文字資料が少ないため、植民地時代以前において大陸スケールで都市を網羅的に把握することはきわめて困難である。

ただし、世界の過去4000年の都市化過程の復元を意図したChandler(1987)によって、植民地時代以前のアフリカにおいても都市別人口リストが作成されている。このリストには、旅行記などの文献資料や統計学的推計に基づき、西暦800, 1000, 1200, 1300, 1400, 1500, 1600, 1700, 1800, 1850年における人口2万以上²⁾の都市および都市人口が示される。第1図は、そのデータを図化したものである。

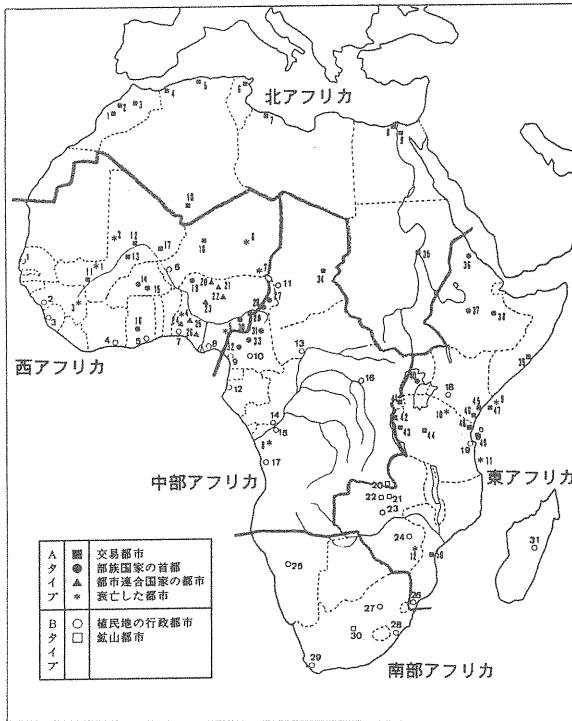
同図によれば、植民地時代以前のアフリカの都市分布は、地域的にかなり限定的なものであったことがわかる。すなわち、都市が稠密に分布するのは、①古代文明以来のナイル川流域、②チュニジア〜モロッコにかけての地中海沿岸地域、③ニジェール川沿岸を中心とするサハラ砂漠南縁地域の3地域である。これに対

*愛媛大学法文学部



第1図 植民地時代以前の 아프리카における人口2万人以上都市の分布

(資料：Chandler, 1987, pp.55~68)



Aタイプ		Aタイプ		類型	
● 交易都市 (アラブ都市をふくむ)		* すでに没した都市			
○ 部族国家の首都		■ 都市連合国家の都市		類型	
▲ 都市連合国家の都市		□ 植民地の行政都市			
* 表亡した都市		■ 鉱山都市		類型	
○ 部族国家の首都		□ 植民地の行政都市			
▲ 都市連合国家の都市		■ 鉱山都市		類型	
* 表亡した都市		■ 鉱山都市			
1	カラシ	A	(I)	タンビサレー	B
2	カサブランカ	A	(H)	ワタ	B
3	フェズ	A	(I)	カンカン	B
4	カラシ	A	(H)	オールドオヨ	B
5	アルジェ	A	(G, H)	イフェ	B
6	チュニス	A	(G, H)	ビルマ	B
7	マリボ	A	(G, H)	シボ	B
8	アレキサンドリア	A	(H)	バリ	B
9	カイロ	A	(G)	(サンサルヴァドル)	F
10	アマントセット	A	(G)	ボタ	F
11	バマコ	C	(G)	ニシガルーカ	F
12	ロンボク	C	(G)	キルワ	F
13	ジュバ	B	(G)	ジンバブエ	F
14	ワグドゥダ	B	(G)		
15	ワグドゥダ	B	(G)		
16	アマドゴ	B	(I)		
17	アガダス	B	(I)		
18	アガダス	B	(I)		
19	アガダス	B	(I)		
20	アガダス	B	(I)		
21	アガダス	B	(I)		
22	アガダス	B	(I)		
23	アガダス	B	(I)		
24	アガダス	B	(I)		
25	アガダス	B	(I)		
26	アガダス	B	(I)		
27	アガダス	B	(I)		
28	アガダス	B	(I)		
29	アガダス	B	(I)		
30	アガダス	B	(I)		
31	アガダス	B	(I)		
32	アガダス	B	(I)		
33	アガダス	B	(I)		
34	アガダス	B	(I)		
35	アガダス	B	(I)		
36	アガダス	B	(I)		
37	アガダス	B	(I)		
38	アガダス	B	(I)		
39	アガダス	B	(I)		
40	アガダス	B	(I)		
41	アガダス	B	(I)		
42	アガダス	B	(I)		
43	アガダス	B	(I)		
44	アガダス	B	(I)		
45	アガダス	B	(I)		
46	アガダス	B	(I)		
47	アガダス	B	(I)		
48	アガダス	B	(I)		
49	アガダス	B	(I)		
50	アガダス	B	(I)		

第2図 アフリカ都市の2類型 (日野 (1992, pp.226~227) 原因に地域境界を付加)

して、これら3地域以外の地域では都市の立地が少なく、都市の空白地域が広がっている。とりわけ、赤道周辺から南半球にかけてのサハラ以南地域 (中部アフリカ、東アフリカ、南部アフリカ) の立地都市としては、エチオピア諸都市、遺跡で名高いジンバブエ、アラビアとのインド洋交易で栄えたキルワ、奴隷貿易の拠点となったコンゴやアンゴラの都市をみる程度である。

これら諸都市の人口規模をみると、人口10万以上に達したのは、当該期間の全年次におけるカイロ、1300~1600年のフェズ、1600年のマラケッシュのみであり、これ以外の都市は全て人口数万人規模にすぎなかった。

2) アフリカ都市の2類型

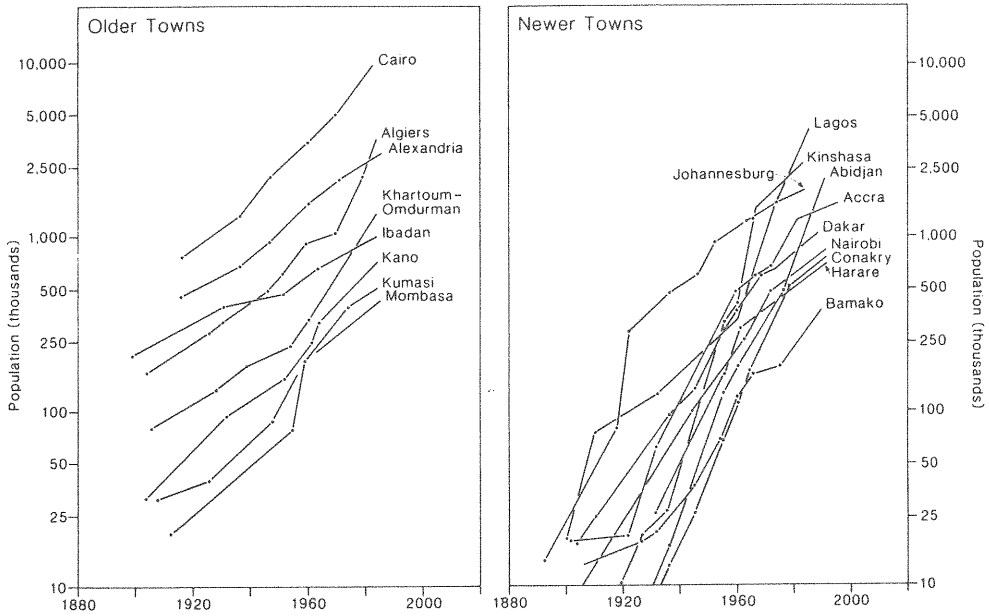
アフリカ都市の類型化については、都市の歴史的成立過程の違いに着目し、植民地以前に成立したAタイプ都市と植民地支配下に建設されたBタイプ都市に大きく二分するのが一般的である (Southall, 1961; 日野, 1983; Stock, 1995)。

日野 (1992, pp.225~230) によれば、Aタイプ都市はさらに、①サハラ交易、環インド洋交易、内陸サバンナ交易の中心地としての交易都市・アラブ都市、

②部族間に支配・被支配の重層関係が生じて成立した部族国家の首都 (クマシ、テンコドゴなど)、③都市の連合を基礎にして成立した部族国家における都市 (カノ、イバダンなど) に三分される (第2図)。これらAタイプ都市は、前節でみたように、北アフリカおよび西アフリカ内陸部に集中していた。

一方、Bタイプ都市については、日野 (1992, p.235) は、都市の主要機能に注目して植民地行政都市と鉱山都市に分けた (第2図)。また、O'Connor (1983, pp.32~37) によれば、Bタイプ都市は、既存集落を土台にして初期から住民の多数がアフリカ人である「植民地都市」(Colonial City) と、アフリカ人の居住を原則的に認めず、ヨーロッパ移民を居住させる目的で新開地に造った「ヨーロッパ移民都市」('European' City) に分けられる。Bタイプ都市の分布は、Aタイプ都市とは異なり、西アフリカ沿岸部および中・南部アフリカに多い (第2図)。

地理的分布の違いに加え、AタイプとBタイプの都市の間には、都市の住民構成にも顕著な差異がある。すなわち、Aタイプ都市には独自の都市文化の担い手としての商人、職人、知識人などの都市民 (towns-men) が中核層として存在するのに対して、Bタイプ



第3図 Aタイプ都市 (Older Towns) とBタイプ都市 (Newer Towns) の人口推移

(出典: Grove, 1993, p.142)

都市には中核都市民は存在せず、農村部からの出稼ぎ民 (migrants) が圧倒的多数派を形成する (松田, 1996, p.57)。このため、両タイプ都市の今世紀における長期の人口変化動向をみると、流入人口が多いナイロビ、ヨハネスバーグなどのBタイプ都市 (Newer Cities) は、カイロ、アルジェ、イバダンなどのAタイプ都市 (Older Cities) に比べて、人口がより急増した (第3図)。

3. アフリカにおける都市化の進展

1) 都市人口の急増

都市化は、現代のアフリカにおいて進行する最も大きな社会変化、文化変化である (日野, 1983, p.180)。それは一方で、大都市、中小都市の出現をもたらし、都市人口を急速に増加させた。1950年以降のアフリカの都市人口の推移をみると、1950年3.3千万人 (世界都市人口の4.4%)、1970年8.4千万人 (同6.2%)、1990年2.0億人 (同8.8%) へと増加し、2000年には3億人を突破し、世界シェアは1割を超えると予想されている (第1表)。このように、アフリカの都市人口は、その世界シェアはいまだ低いものの、急増傾向が著しく、世界シェアを急速に高めつつある。

実際、10年ごとの大陸別都市人口の増加率をみると、世界全体では1950年代 (1950~60年) 約4割増、1960年代以降は約3割増であるのに対して、アフリカの当該比率は全期間5割増以上となっている。アフリカの都市人口増加率は、1950年代にはアジアにわずかに劣ったものの、多くのアフリカ諸国が独立した1960年代以降においては、世界で最も高率である。

第1表は、アフリカ5地域 (東・中部・北・南部・西アフリカ) および都市人口500万以上 (1990年) のアフリカ主要国における1950年以降の都市人口の推移を示したものである。同表によって、アフリカにおける都市人口増加比率の地域的差異をみると、東アフリカ³⁾ および西アフリカ地域で当該比率が高い。とりわけ1960年代以降においては、東アフリカが最も高率となっており、そのなかでもケニア共和国の当該比率はさらに高率である。ケニア共和国では、1963年の独立以後、10年間にほぼ倍増するペースで都市人口が増加している。

都市人口の増加傾向の特徴をさらに検討するため、農村人口 (Rural Population) における同様の推移をみたのが第2表である。同表によれば、全期間のヨーロッパ、1990年代のラテンアメリカ、1950、60年代の北アメリカでは、農村人口が減少している。1950年以

第1表 世界の地域別都市人口の推移

地 域	都 市 人 口 (千人)						都 市 人 口 増 加 率				
	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	1960/50	1970/60	1980/70	1990/80	2000/1990
世界合計	737,852	1,032,730	1,352,785	1,751,537	2,277,450	2,926,444	140.0	131.0	129.5	130.0	128.5
アジア	235,786	374,009	502,950	706,263	1,104,192	1,407,806	158.6	134.5	140.4	143.6	138.8
ヨーロッパ	286,407	350,004	422,528	479,248	519,982	548,409	122.2	120.7	113.4	108.5	105.5
ラテンアメリカ	68,967	107,359	162,674	233,342	314,161	401,361	155.7	151.5	143.4	134.6	127.8
北アメリカ	106,105	138,877	167,147	186,650	209,428	237,178	130.9	120.4	111.7	112.2	113.3
オセアニア	7,764	10,451	13,679	16,153	18,650	21,532	134.6	130.9	118.1	115.5	115.5
アフリカ	32,824	52,030	83,806	129,881	201,037	310,158	158.5	161.1	155.0	154.8	154.3
東アフリカ	3,507	6,213	11,375	21,309	37,591	64,168	177.2	183.1	187.3	176.4	170.7
エチオピア	848	1,465	2,477	3,812	5,815	9,516	172.8	169.1	153.9	152.5	163.6
ケニア共和国	350	613	1,184	2,675	5,565	10,347	175.1	193.1	225.9	208.0	185.9
タンザニア	299	481	916	2,741	5,325	9,608	160.9	190.4	299.2	194.3	180.4
中部アフリカ	3,736	5,687	9,947	14,657	21,880	34,323	152.2	174.9	147.4	149.3	156.9
コンゴ(旧ザイール)	2,327	3,420	6,142	7,756	10,506	15,865	147.0	179.6	126.3	135.5	151.0
北アフリカ	13,147	20,234	31,096	44,452	62,714	86,143	153.9	153.7	143.0	141.1	137.4
アルジェリア	1,948	3,288	5,430	8,127	12,899	18,586	168.8	165.1	149.7	158.7	144.1
エジプト	6,971	10,541	14,894	19,178	24,743	32,054	151.2	141.3	128.8	129.0	129.5
モロッコ	2,345	3,409	5,286	7,955	11,217	15,096	145.4	155.1	150.5	141.0	134.6
スーダン	579	1,150	2,271	3,728	5,544	8,742	198.6	197.5	164.2	148.7	157.7
南部アフリカ	5,958	8,257	11,069	14,692	19,509	26,861	138.6	134.1	132.7	132.8	137.7
南アフリカ共和国	5,898	8,113	10,736	14,043	18,240	24,550	137.6	132.3	130.8	129.9	134.6
西アフリカ	6,475	11,639	20,319	34,771	59,342	98,662	179.8	174.6	171.1	170.7	166.3
ガーナ	709	1,575	2,495	3,346	5,107	7,901	222.1	158.4	134.1	152.6	154.7
ナイジェリア	3,340	6,084	11,020	19,504	33,808	55,751	182.2	181.1	177.0	173.3	164.9

注1) アフリカの地域区分は第2図を参照。アフリカの国別人口は1990年の都市人口500万人以上の国のみを表示。

2) 都市人口増加率の算出式は、期末年次人口/期初年次人口×100。

(資料：United Nations, 1995, pp.86~93)

第2表 世界の地域別農村人口の推移

地 域	農 村 人 口 (千人)						農 村 人 口 増 加 率				
	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	1960/50	1970/60	1980/70	1990/80	2000/1990
世界合計	1,781,896	1,988,756	2,344,356	2,692,815	3,007,383	3,231,608	111.6	117.9	114.9	111.7	107.5
アジア	1,166,939	1,328,751	1,644,541	1,935,846	2,172,255	2,328,040	113.9	123.8	117.7	112.2	107.2
ヨーロッパ	262,305	255,247	233,913	213,747	201,752	181,395	97.3	91.6	91.4	94.4	89.9
ラテンアメリカ	96,691	109,588	120,539	125,096	125,556	122,514	113.3	110.0	103.8	100.4	97.6
北アメリカ	59,970	59,786	59,333	65,811	68,410	69,102	99.7	99.2	110.9	103.9	101.0
オセアニア	4,847	5,278	5,631	6,532	7,778	9,119	108.9	106.7	116.0	119.1	117.2
アフリカ	191,144	230,106	280,399	345,783	431,632	521,438	120.4	121.9	123.3	124.8	120.8
東アフリカ	62,111	77,187	98,277	124,184	158,209	197,124	124.3	127.3	126.4	127.4	124.6
エチオピア	17,586	21,306	26,315	32,555	41,608	54,270	121.2	123.5	123.7	127.8	130.4
ケニア共和国	5,915	7,718	10,314	13,957	18,047	22,230	130.5	133.6	135.3	129.3	123.2
タンザニア	7,587	9,724	12,777	15,840	20,275	24,467	128.2	131.4	124.0	128.0	120.7
中部アフリカ	22,579	26,146	30,155	37,576	48,604	61,254	115.8	115.3	124.6	129.3	126.0
コンゴ(旧ザイール)	9,857	11,914	14,128	19,252	26,930	35,271	120.9	118.6	136.3	139.9	131.0
北アフリカ	40,155	46,800	54,293	65,657	80,308	92,300	116.5	116.0	120.9	122.3	114.9
アルジェリア	6,805	7,512	8,316	10,613	12,036	12,573	110.4	110.7	127.6	113.4	104.5
エジプト	14,863	17,299	20,391	24,571	31,570	37,092	116.4	117.9	120.5	128.5	117.5
モロッコ	6,608	8,217	10,024	11,428	13,117	14,541	124.3	122.0	114.0	114.8	110.9
スーダン	8,611	10,015	11,588	14,952	19,042	23,337	116.3	115.7	129.0	127.4	122.6
南部アフリカ	9,623	11,441	14,302	18,313	22,718	26,142	118.9	125.0	128.0	124.1	115.1
南アフリカ共和国	7,785	9,284	11,722	15,127	18,826	21,665	119.3	126.3	129.0	124.5	115.1
西アフリカ	56,675	68,534	83,373	100,054	121,793	144,617	120.9	121.7	120.0	121.7	118.7
ガーナ	4,191	5,199	6,117	7,390	9,913	12,271	124.1	117.7	120.8	134.1	123.8
ナイジェリア	29,595	36,222	44,051	52,520	62,346	73,034	122.4	121.6	119.2	118.7	117.1

注1) アフリカの地域区分は第2図を参照。アフリカの国別人口は1990年の都市人口500万人以上の国のみを表示。

2) 農村人口増加率の算出式は、期末年次人口/期初年次人口×100。

(資料：United Nations, 1995, pp.94~101)

降の各10年間の農村人口増加率をみると、世界全体では全期間約1割増であるのに対して、アフリカの当該比率は全期間2割増以上となり、アジアの数値に劣る1960年代を除き、やはり世界最高値を示す。このように、アフリカでは、農村人口が急増するなかで、都市人口がそれを大きく上回る比率で増加を続けてきたのである。

一方、アフリカにおける農村人口増加率の地域的差異をみると、都市人口においてみられた東アフリカおよび西アフリカ地域の人口増加の卓越性はみられない。すなわち、上記のアフリカ5地域で比較すると、最高比率を示す地域は、1950、60年代は東アフリカ、1970年代は南部アフリカ、1980、90年代は中部アフリカである。前世紀後半の1950～2000年の期間における年平均都市人口増加率と年平均農村人口増加率を算出すると、ケニア共和国は7.0%と2.7%、南アフリカ共和国は2.9%と2.1%であり、ケニア共和国における都市と農村における人口の成長格差はさきわめて大きい。

以上のように、アフリカは世界で最も都市人口の増加が著しい地域であり、とりわけケニア共和国などの東アフリカ地域の増加傾向が最も著しい。

2) 都市人口比率の推移

都市化とは、土地や住民が農村的なものから都市的なものへと変化していくことであり、都市化の概念には、景観的都市化、社会学的都市化、人口学（地理学）的都市化などがある⁴⁾。このうち、人口学的都市化とは、都市人口比率の増大過程を意味する。第3表は、1950～2000年におけるアフリカを主とする世界の地域別都市人口比率の推移を示したものである。同表によれば、世界全体の都市人口比率は、1950年の29.3%から1990年には43.1%へと上昇している。ただし、1990年の当該比率を大陸別にみると、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、北アメリカ、オセアニアは70%以上を示すのに対して、アジアとアフリカはともに31.8%である。アフリカの当該比率の推移をみると、1950年14.7%、1970年23.0%、1990年31.8%であり、アジアの数値を上回った1980年以外は世界最低である（第3表）。このように、アフリカはアジアと並んで、都市人口比率が世界のなかでも最も低い水準にあり、都市化の進展が遅れているが、都市人口比率を急速に上昇させつつある地域である。

アフリカにおける1990年の都市人口比率の地域的差

第3表 世界の地域別都市人口比率の推移

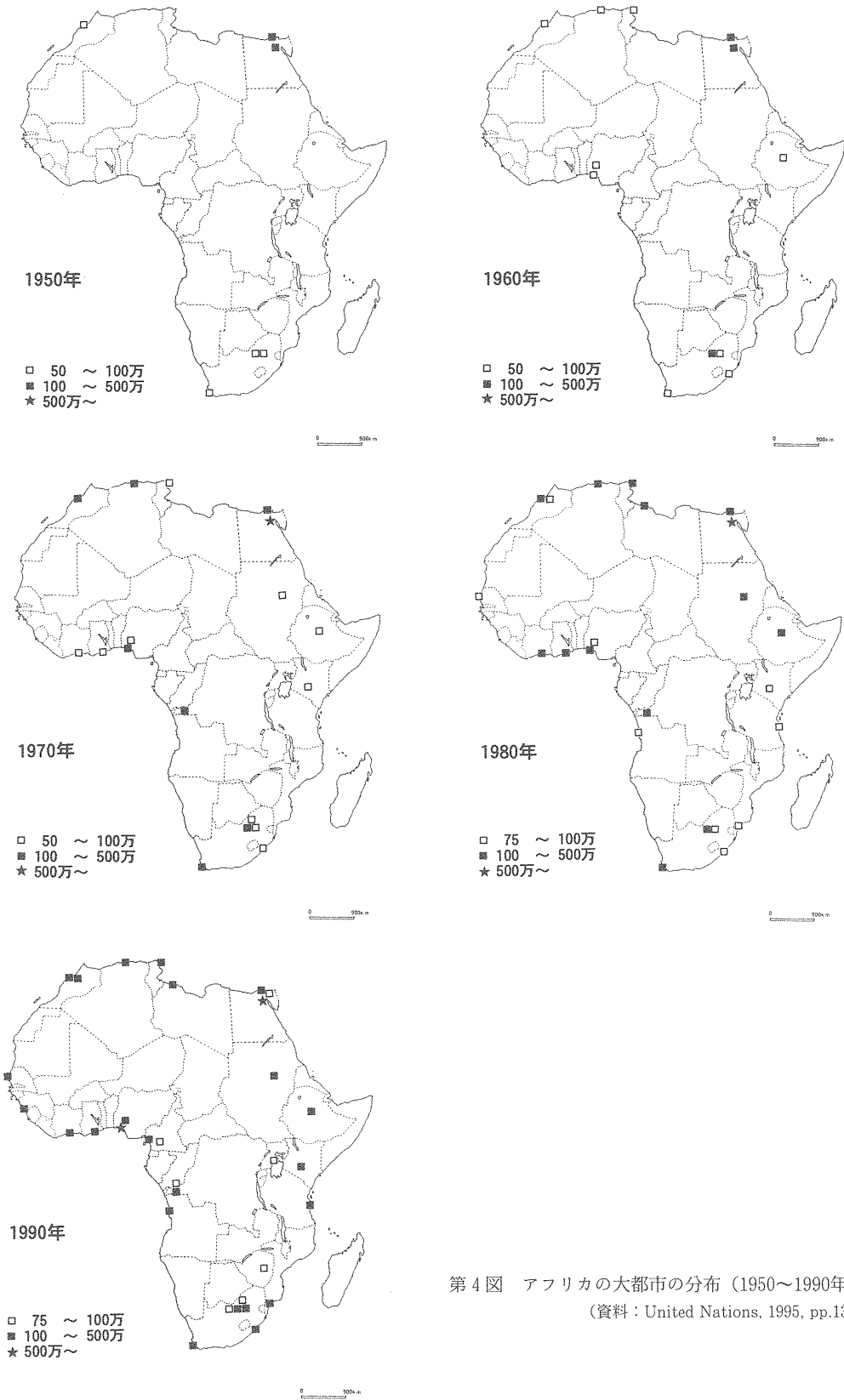
地 域	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年
世界合計	29.3	34.2	36.6	39.4	43.1	47.5
アジア	16.8	22.0	23.4	26.7	31.8	37.7
ヨーロッパ	52.2	57.8	64.4	69.2	72.0	75.1
ラテンアメリカ	41.6	49.5	57.4	65.1	71.4	76.6
北アメリカ	63.9	69.9	73.8	73.9	75.4	77.4
オセアニア	61.6	66.4	70.8	71.2	70.6	70.2
アフリカ	14.7	18.4	23.0	27.3	31.8	37.3
東アフリカ	5.3	7.4	10.4	14.6	19.2	24.6
エチオピア	4.6	6.4	8.6	10.5	12.3	14.9
ケニア共和国	5.6	7.4	10.3	16.1	23.6	31.8
タンザニア	3.8	4.7	6.7	14.8	20.8	28.2
中部アフリカ	14.2	17.9	24.8	28.1	31.0	35.9
コンゴ(旧ザイール)	19.1	22.3	30.3	28.7	28.1	31.0
北アフリカ	24.7	30.2	36.4	40.4	43.8	48.3
アルジェリア	22.3	30.4	39.5	43.4	51.7	59.6
エジプト	31.9	37.9	42.2	43.8	43.9	46.4
モロッコ	26.2	29.3	34.5	41.0	46.1	50.9
スーダン	6.3	10.3	16.4	20.0	22.5	27.3
南部アフリカ	38.2	41.9	43.6	44.5	46.2	50.7
南アフリカ共和国	43.1	46.6	47.8	48.1	49.2	53.1
西アフリカ	10.3	14.5	19.6	25.8	32.8	40.6
ガーナ	14.5	23.3	29.0	31.2	34.0	39.2
ナイジェリア	10.1	14.4	20.0	27.1	35.2	43.3

注) アフリカの地域区分は第2図を参照。アフリカの国別都市人口比率は1990年の都市人口500万人以上の国のみを表示。

(資料: United Nations, 1995, pp.78～85)

異をみると、北アフリカと南部アフリカは40%台、中部アフリカと西アフリカは30%台前半、東アフリカは19.2%である。1990年以前においても、都市化の進展度合において、北アフリカと南部アフリカが最も先行し、中部アフリカと西アフリカがそれに次ぎ、東アフリカが最も遅い傾向は、同様に認められる。

最後に、ケニア共和国と南アフリカ共和国における当該比率の推移をみると、ケニア共和国が1950年5.6%、1970年10.3%、1990年23.6%、南アフリカ共和国が同43.1%、47.8%、49.2%であり、両国にはかなりの相違が認められる。すなわち、ケニア共和国は、アフリカのなかでも都市人口比率が最も低い水準にある国の一つであるが、前節でみたように、農村部から都市への人口移動によって、急速に都市人口比率が高まりつつある国として位置づけられる。これに対して、南アフリカ共和国は、都市人口比率が概して低いアフリカ諸国のなかにおいて当該比率が例外的に高い国であり、農村に先だてて都市が成立する新開地の性格を強くもっている。



第4図 アフリカの大都市の分布 (1950~1990年)

(資料: United Nations, 1995, pp.132~139)

4. 都市の規模と分布

1) 都市の分布

United Nations (1995) は、1994年の人口75万以上の世界の都市について、各国センサスデータなどに基づき、1950年以降の都市人口を推計している。当該データに基づき、1950年以降10年ごとのアフリカの都市分布を示したのが、第4図および第4表である。同表によれば、アフリカの人口50万以上の都市数は、1950年6、60年12、70年19、80年31、90年55と増加してきた。このうち、100万都市の数は、1950年は2都市（カイロ、アレキサンドリア）であったが、以後1960年3都市（ヨハネスバーグが加わる）、1970年8

第4表 アフリカの都市規模別にみた都市数、都市人口、人口構成比の推移

都市人口規模階級	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年
50万未満					
都市数	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
都市人口(千人)	26,886	39,265	60,127	87,059	120,880
人口構成比(%)	(81.3)	(75.5)	(71.7)	(67.0)	(60.1)
50～100万					
都市数	4	9	11	17	30
都市人口(千人)	2,690	6,402	7,592	12,768	21,027
人口構成比(%)	(8.2)	(12.3)	(9.1)	(9.8)	(10.5)
100～500万					
都市数	2	3	7	13	23
都市人口(千人)	3,448	6,363	10,754	23,202	42,755
人口構成比(%)	(10.5)	(12.2)	(12.8)	(17.9)	(21.3)
500万以上					
都市数	0	0	1	1	2
都市人口(千人)	0	0	5,333	6,852	16,375
人口構成比(%)	(0.0)	(0.0)	(6.4)	(5.3)	(8.1)

(資料：United Nations, 1995, p.168)

都市（同アルジェ、カサブランカ、ラゴス、ケープタウン、キンシャサ）、1980年14都市（同アビジャン、アジスアベバ、アクラ、トリポリ、ハルツーム、チュニス）、1990年25都市（同ルアンダ、ドアラ、コナクリ、ナイロビ、ラバト、マプト、イバダン、ダカール、ダーバン、イーストランド、ダルエスサラーム）へと増加した（第4図）。このように大都市が増加するにつれ、アフリカにおける都市総人口に占める100万都市人口のシェアは、1950年の10.5%から70年の19.2%、90年の29.4%へと増加した。これらアフリカの100万都市の多くは、港湾都市および首都である。

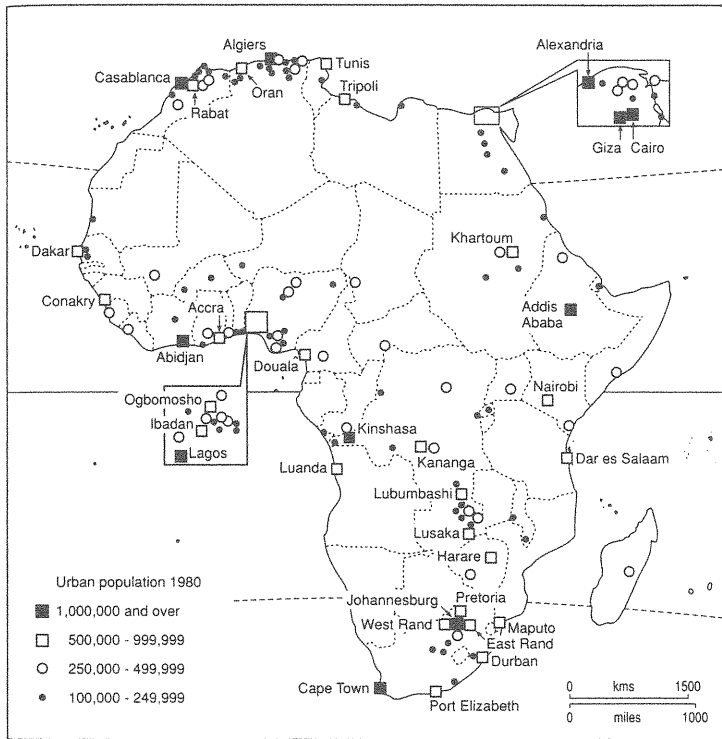
さらに、『国連世界人口年鑑』によって、中小都市を含めた都市規模分布を検討する。当該資料では、各国の最新人口センサスデータなどによって、人口10万以上の都市がリストアップされているが、統計年次がそろわないうらみがある。第5表は、同資料の1976、1988、1996年版によって、アフリカの人口10万以上の都市を抽出し、地域別、規模別に整理した結果を示したものである。同表によれば、アフリカにおける人口10万以上の都市数は、1970年代139、1980年代190、1990年代237であり、各年代間に都市は約50ずつ増加したことがわかる。地域的には、前節でみたように、Bタイプ都市の多い東アフリカおよび南部アフリカにおいて、都市数の増加傾向が著しい。

第5図は、当該資料に依拠したと思われる1980年頃のアフリカの都市分布図である。アフリカの過去の都市分布（第1図）と比較して、都市の稠密分布地域を読みとれば、以下の諸点が指摘できる。①北アフリカのナイル川流域およびチュニジアからモロッコにかけての地中海沿岸地域には、都市が稠密に分布する。②西アフリカでは、かつてのサハラ砂漠南縁の内陸地域ではなく、沿岸に都市が連続的に分布しており、都市

第5表 アフリカの人口規模別都市数（1976→1988→1996年）

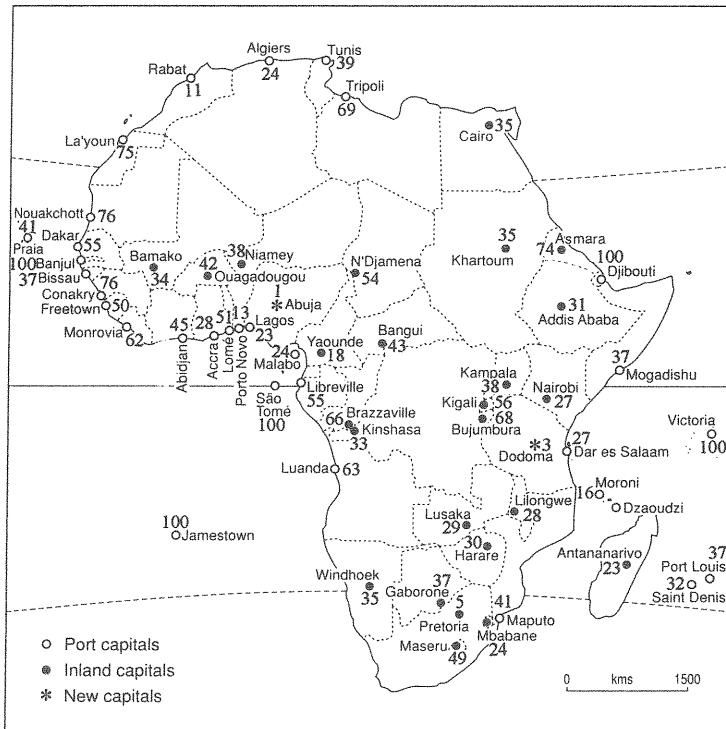
都市人口規模階級	北アフリカ	西アフリカ	中部アフリカ	東アフリカ	南部アフリカ	合計
10～20万	17→21→34	21→23→28	10→8→8	5→11→22	10→15→19	63→78→111
20～30万	11→16→16	12→12→13	1→3→3	3→8→7	1→4→10	28→43→49
30～50万	10→12→12	3→8→6	4→3→5	8→7→7	1→0→0	26→30→30
50～100万	4→7→8	3→3→5	2→4→3	3→3→3	2→6→7	14→23→26
100～200万	1→3→4	1→2→3	0→1→1	1→3→3	2→3→3	5→12→14
200万～	2→3→4	0→0→0	1→1→1	0→0→2	0→0→0	3→4→7
合計	45→62→78	40→48→55	18→20→21	20→32→44	16→28→39	139→190→237

(資料：国際連合, 1979 ; 1991 ; 1999)



第5図 アフリカの都市の分布 (1980年)

(出典 : Griffiths, 1994, p.161)



第6図 アフリカにおける首都の分布と首都人口比率 (1990年)

(ただし、数字が首都人口比率、Griffiths (1994, p.163) の原図を一部改変。)

(資料 : United Nations, 1995, pp.86~91, 140~142)

分布に変化が認められる。③都市の分布が少なかったアフリカ南半地域においては、コンゴ・カタンガ地域から南アフリカ共和国にかけての内陸部に都市が稠密に分布するようになった。

アフリカにおける1990年代の人口10万以上の237都市を、国別都市数の多い順にみると、南アフリカ共和国39、ナイジェリア27、エジプト24、アルジェリア17、モロッコ16となり、この上位5カ国でアフリカ全都市数の半数以上を占める。このように、南アフリカ共和国などの特定諸国に都市が集中している点は、アフリカの都市分布にみられる特徴の一つである。

2) 首位都市卓越性

アフリカ都市の規模別分布にみられる大きな特徴として、他の国内都市に比べて過大な人口首位都市(Primate City)の存在、すなわち顕著な「首位都市卓越性」を指摘することができる。アフリカ諸国の人口首位都市のほとんどは首都であり、人口の「首都一極集中」と言い換えてもよい。実際、アフリカ諸国の中で、首都が人口首位都市ではない事例は、わずかにボルトノボ(ベニン)、ヤウンデ(カメルーン)、リロングウェ(マラウイ)、ラバト(モロッコ)、プレトリア(南アフリカ共和国)のわずか5ヶ国にすぎない(Griffiths, 1994, p.162)⁵⁾。

首位都市の人口卓越性を計測する最も代表的な指標には、プライメイト示数(Primate Index, 首位都市人口/人口第2位都市人口)、首位都市人口比率(首位都市人口/当該国の都市総人口×100)がある。アフリカ諸国の首都について、前者のプライメイト示数を算出すると、当該示数が10を超えて首位都市卓越性が顕著である首都(国)は、ルワンダ(アンゴラ)、ブジュンブラ(ブルンジ)、バンギ(中央アフリカ)、

ジブチ(ジブチ)、コナクリ(ギニア)、ビサウ(ギニアビサウ)、マセル(レソト)、バマコ(マリ)、マポート(モザンビーク)、キガリ(ルワンダ)、モガジシオ(ソマリア)である(Griffiths, 1994, p.162)。

第6図は、1990年におけるアフリカ56諸国・地域⁶⁾の首都および首都人口比率を示したものである。同図にしたがって、アフリカ諸国の首都の地理的位置に着目すると、港湾都市と内陸都市はほぼ半数ずつを占める。港湾都市の首都は、北アフリカと西アフリカに、内陸都市の首都は東・中部・南部アフリカにそれぞれ集中しており、明白な分布の地域的差異が認められる。また、アフリカには14の内陸国(Land-locked Countries)が存在することがわかる。

首都人口比率を10%ごとに区切って該当するアフリカ諸国・地域数をみると、10%未満3、10%台4、20%台8、30%台15、40%台6、50%台6、60%台5、70%台4、90%台5であり、同比率が30%台である国・地域が多い(第6表)。当該比率が50%を超え、とりわけ首都人口卓越性の顕著な国・地域の分布をみると、東アフリカにおける狭小国や島嶼国(ルワンダ、ブルンジ、エリトリア、ジブチ、セイシェル)および西・北アフリカにおけるサハラ周辺国(西サハラ、モーリタニア、チャド)などが該当する。一方逆に、当該数値が極端に低い諸国は、首都を移転したナイジェリア(アブジャ、当該比率1.1%)とタンザニア(ドドマ、同2.5%)、三権分立で名高い⁷⁾南アフリカ共和国(プレトリア、同5.2%)である。

なお、第6表には、アフリカ諸国の首都人口比率が世界的にみて高い水準にあることを示すために、いくつかのアジア、ヨーロッパ諸国の当該比率も示した。同表によれば、北・西ヨーロッパの主要国の多くは30%未満であり、日本の当該比率は、東京2501.3万人に

第6表 アフリカ、アジア、ヨーロッパ諸国の首都人口比率(1990年)

首都人口比率階級	アフリカ	東アジア	東南アジア	西ヨーロッパ	北ヨーロッパ
0 ~ 10%	3ヶ国	中国	インドネシア・ベトナム	ドイツ・スイス・オランダ	
10 ~ 20%	4	北朝鮮	マレーシア	ベルギー	イギリス
20 ~ 30%	8	日本	カンボジア・フィリピン	ルクセンブルク・フランス	スウェーデン/ノルウェー/フィンランド/リトアニア
30 ~ 40%	15	韓国	ミャンマー		
40 ~ 50%	6	モンゴル		オーストリア	アイルランド・エストニア・ラトビア
50 ~ 60%	6		タイ		
60 ~ 70%	5				
70 ~ 80%	4				
80%~	5				

注) ただし、地域名称、当該諸国は、国連の地域区分に基づく。

(資料: United Nations, 1995, pp.86~91, 140~142)

基づく26.2%である。アフリカ諸国・地域の場合、当該比率30%以上の国・地域数は41となり、全体のほぼ4分の3を占める。このように、アフリカにおける首位都市卓越性の傾向はきわめて顕著である。

5. おわりに

以上本稿では、アフリカの都市群特性やその地域的差異を検討した。分析結果を要約すれば、下記のとおりである。

①アフリカの諸都市は、植民地以前に成立したAタイプ都市と植民地支配下に建設されたBタイプ都市に大きく2分される。Aタイプ都市は北アフリカ、西アフリカ内陸部、Bタイプ都市は西アフリカ沿岸部、中・南部アフリカに多い。Bタイプ都市は、出稼ぎ民が圧倒的に多く、人口急増傾向がより著しい。

②アフリカは、1950年以降世界で最も都市人口の増加が顕著な地域である。とりわけ、ケニア共和国など東アフリカ地域の都市人口の急増傾向は著しいが、都市人口比率はいまだ低率である。都市人口比率が比較的高率で、アフリカで都市化が最も進行しているのは、北アフリカと南部アフリカ地域である。

③急激な都市化に伴い、100万都市をはじめ、アフリカの都市数は急速に増加してきた。都市の稠密分布地域は、北・西アフリカ沿岸部および南部アフリカ内陸部である。また、都市の分布は、南アフリカ共和国、ナイジェリア、エジプトなどの特定諸国に集中している。100万都市の多くは港湾都市または首都であり、首位都市の人口卓越性は世界のなかでも高い。

④植民地時代以前、東アフリカおよび南部アフリカ地域には、都市の分布は少なかった。ケニア共和国はアフリカのなかでも都市人口の増加が最も著しい国の一つであり、南アフリカ共和国は、都市人口比率が高く、新開地の性格を強くもっている。

注

- 1) 近代以降に開発や植民が本格化し、急速に都市群の成立や都市システムの発達をみた開発年代の新しい国家(national)または地方(semi-national)スケールの地域の意である。
- 2) ただし、1850年のみは人口4万以上の都市リストが示される。
- 3) 国連の地域区分による東アフリカは、第2図に示さ

れる範囲の17ヶ国1地域であり、第1表の地域区分はこれに基づいた集計データである。通常、東アフリカといえば、ケニア共和国、ウガンダ、タンザニアの3国をさすことが多い(吉田, 1978, pp.2~3)が、山川出版社発行の世界現代史シリーズの同書では、ソマリア、エチオピア、ジブチ、スーダン、ブルンジ、ルワンダを加えた9ヶ国を東アフリカとして扱っている。

- 4) これら都市化の概念については、森川(1990, pp.1~13)に詳しい。
- 5) この5カ国のほか、人口・経済の首都一極集中問題や民族問題の解決のため、近年首都を移転し、新首都を建設したコートジボワール(新首都ヤムスクロ)、ナイジェリア(同アブジェ)の事例もある。なお、首都の概念、機能、立地などについては、横山(1988)が詳しい。
- 6) アフリカ53ヶ国に加え、サントニ(フランス領レ・ユニオン島)、ラワイアン(西サハラ)、ジェームスタウン(イギリス領セントヘレナ島)が示される。
- 7) 行政府はプレトリア、最高裁判所はブルームフォンテン、国会議事堂はケープタウンにあるほか、経済の中心都市はヨハネスバーグである。

文 献

- コナー著、近藤義郎・河合信和訳(1993):『熱帯アフリカの都市化と国家形成』。河出書房新社(Connah, G. (1985): *African Civilizations*, Cambridge University Press, Cambridge).
- 土屋哲・中村弘光・中原精一(1987):『アフリカの都市問題』。勁草書房。
- 寺谷亮司(1993):ケニアの都市システム—1948~1989年の都市群動向—。「社会科」学研究, 25, 17~33.
- 寺谷亮司(1997):ゲートウェイ都市・ケープタウンの都市特性—小樽との類似点を中心として—。愛媛の地理, 13, 15~24.
- 寺谷亮司(1999):植民地都市・ナイロビの都市内部構造(1)—都市発達史とCBDを中心として—。愛媛の地理, 14, 33~48.
- 寺谷亮司(2001):南アフリカ共和国における都市システムの形成と発展。愛媛大学法文学部論集人文科学編, 10, 241~272.
- 早瀬保子(1999):『アフリカの人口と開発』。日本貿易振興会アジア経済研究所。
- 日野舜也(1983):アフリカの都市と近代化。米山俊直・伊谷純一郎編:『アフリカハンドブック』, 講談社, 180~197.
- 日野舜也(1992):アフリカの伝統的社会と近代化—国民社会と都市社会—。日野舜也編:『アフリカの文化と社会』, 勁草書房, 221~254.
- 松田素二(1996):『都市を飼ひ慣らす—アフリカの都市人類学—』, 河出書房新社。

- 森川洋 (1990) : 『都市化と都市システム』, 大明堂.
横山昭市 (1988) : 『首都』, 大明堂.
吉田昌夫 (1978) : 『世界現代史14アフリカ現代史Ⅱ－東アフリカー』. 山川出版社.
Chandler, T. (1987) : *Four Thousand Years of Growth*. The Edwin Mellen Press, Lewiston, New York.
Griffiths, L.G. (1994) : *The Atlas of African Affairs (second edition)*. Routledge, London.
Grove, A.T. (1993) : *The Changing Geography of Africa (second edition)*. Oxford University Press, Oxford.
O'Connor, A. (1983) : *The Africaa City*. Africana Publishing Company, New York.
Southall, A. (1961) : Introductory Summary. Southall, A. eds. : *Social Change in Modern Africa*. Oxford University Press, London, 1~66.
Stock, R. (1995) : *Africa South of the Sahara : A Geographical Interpretation*. The Guilford press, New York.
United Nations (1995) : *World Urbanization Prospects (The 1994 Revision)*. United Nations, New York.